

日本の海岸線

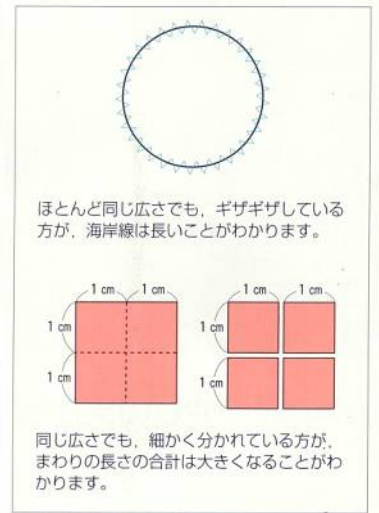
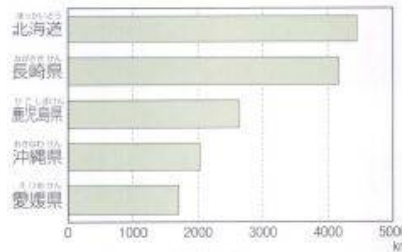
アメリカの面積は日本の約25倍もあり
ます。しかし、アメリカの海岸線の約2.1
万kmに対し、日本のそれは約3.4万kmと
約1.6倍もあります。

日本の国土は、周りがギザギザして細かく
分かれているため、日本には約(1…千の位
までの概数で)の島々があり、出入りの複雑
な海岸も多いです。

それに対し、アメリカは北と南が他の国
と陸続きで、海岸線も単調です。

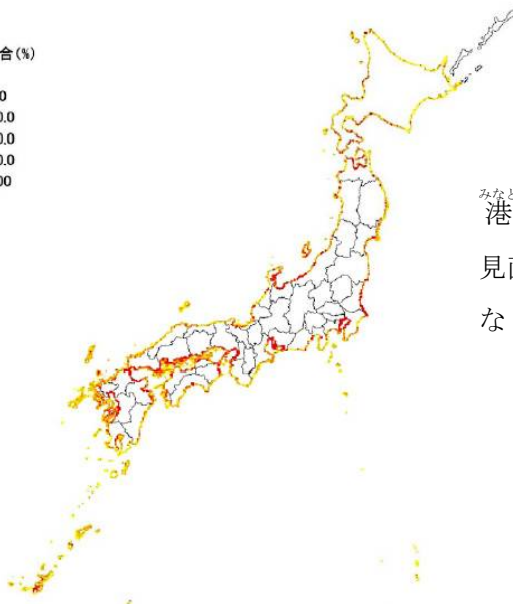
こうしたことから、日本は国土面積のわりに
海岸線が長いのです。そして、海岸線が

一番長い都道府県は北海道で、2位が(2…?県)です。



海岸の種類

11-②人工海岸の割合



海岸は、砂浜海岸や岩石海岸の(3…?海岸)と、コンクリートなどで造られた(4…?海岸)に分けます。

自然の海岸は海岸線のおよそ半分くらいありますが、
年々減りつづけ、人工の海岸が増えています。

港や工場をつくったためです。しかし、自然を残す大切さが見直され、自然のままの海岸を残す動きが各地で見られるようになりました。

九十九里浜



砂浜海岸の暮らし

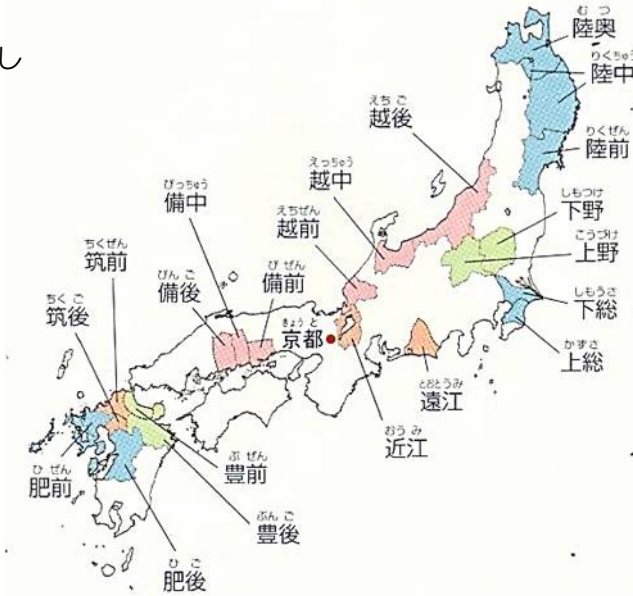
日本一広い砂浜は下北半島にある青森県の猿ヶ森砂丘ですが、千葉県の(5…漢字で)が長い砂浜海岸として知られています。太平洋側に約60kmにわたって弓形に続いています。しかし、砂浜海岸は漁業には向いていません。遠浅(浅い海が続いた)の海で入り江が少ないため、漁港が少ないのです。漁港をつくるには砂浜をほらなければなりません。昔はこの海岸で、畑の肥料にするほどたくさんの(6…魚の種類)が取れました。

今はその数も減り、観光用の(7…右のような魚の種類)魚が行われている程度です。

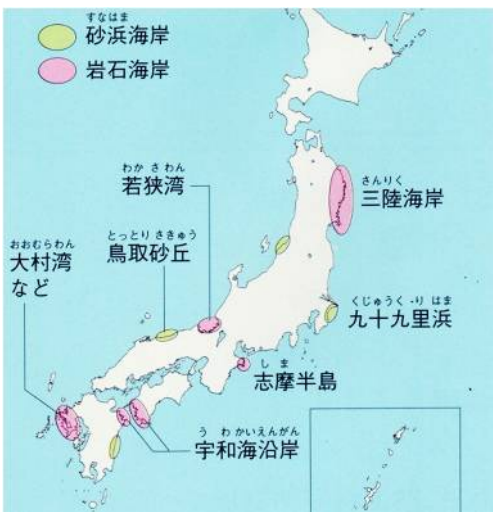


砂浜の内側の平野では野菜や草花づくりが行われ、東京などに出荷されており、千葉県の野菜の産出額は日本有数です。このように、大都市近くで行なう農業を(8…?農業)といいます。しかし、近年は農業や漁業をやめて、比較的安い料金を観光客に泊ってもらう(9…?宿)を営む人たちが増えていました。夏の海水浴シーズンには多くの人が訪れています。

がせき 岩石海岸の暮らし



むかし、青森県は陸奥、(10)県は陸中、(11)県は陸前とよばれていたことから名がつけられた(12…?海岸)は、大むかしに海面があがったときに、それまでは谷だったところに海水が入り込んでできた海岸です。こうした足元からいきなり深くなっている海岸を(13…?海岸)といいます。真珠で知られる三重県の志摩半島、原子力発電所が集まった福井県の(14…?湾)、長崎県の大村湾などもこうした海岸です。



この海岸はのこぎりの歯のように入りこんでいます。山が海にせまっているため、田畑として使える土地が少なくて農業には向いていません。そのため、水産業がさかんに行われてきました。

- ①海岸近くの海が深いため、船をとめておく漁港をつくりやすいこと。
- ②入り江は波も静かなため、魚を生簀などで育てて売る養殖に向いているためです。

なかでも、三陸海岸がよい漁場なのは、沖合に(15…漢字)があるためです。(15)とは、

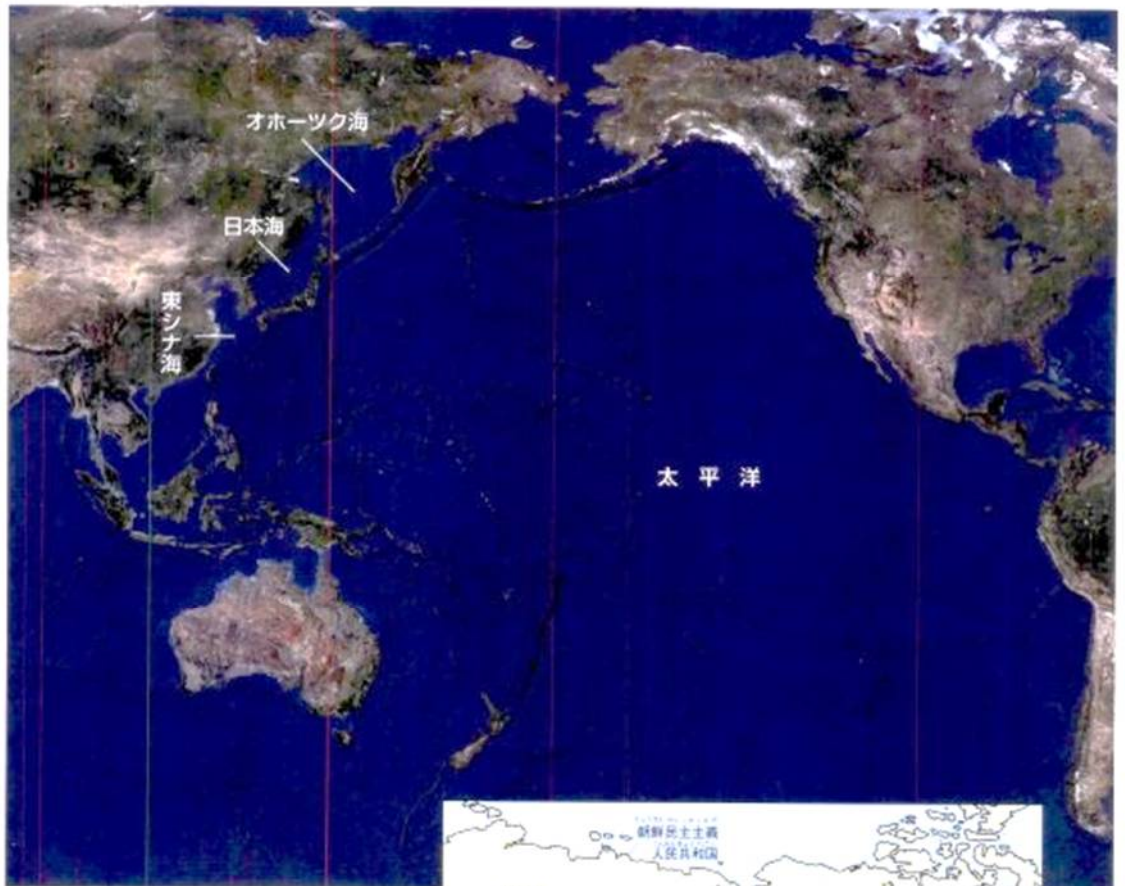
親潮とよばれる(16…?海流)の寒流と、黒潮といわれる(17…?海流)の暖流がぶつかる場所をいいます。海水がかき回されて、深いところの養分が上がってきて、魚のえさになる(18…カタカナ)がふえ、それを食べに多くの魚が集まるのです。



また、近年は、水産資源が減ってきたため、魚・貝・海藻などを育ててから捕る養殖業から、海岸近くに木を植えたり稚魚を放流したりするなどの(19…?漁業)に力が入れています。

さらに、海底の地震などによって急に発生する高い波を(20…漢字で)といいます。三陸海岸の多くはV字型になっているため、波がおしあげられて高くなってしまいます。そのため、これを防ぐための(21…漢字2字)林や(21)堤をつくって、これからのがれる工夫をしています。

日本のまわりの海



日本は、東に世界最大の(22…海名)、北に流水がおしよせる(23…海名)、西に朝鮮半島やロシアとの間の(24…海名)、中国の東にあって大陸棚が広がる(25…海名)の4つの海に囲まれています。大陸棚とは、水深200mぐらいまでの海のことです。海底まで日光がとどくため、海藻が育ちやすく(26…魚のえさ)が豊富な海のことです。



ひがた
干潟を残そう



潮干狩りができるような潮の引いた砂地の浜辺を(27…ひらがな可)といいます。
 こうした浜辺には、長崎県の諫早湾にすむハゼ科の(28…右の魚名)など、いろいろな生物が住んでいるだけでなく、さまざまなはたらきがあります。



生物のすみか…魚・貝・鳥など、いろいろな生物のすみかになっています。

水をきれいにする…干潟の砂の中の生物や細菌の(29…カタカナで。微小な生物の意味)の働きによって、汚れた水が分解されてきれいな水にもどります。



オオソリハシギ



チュウシャクシギ

渡り鳥のえさ場…渡り鳥が羽を休め、えさを食べる場所になります。

人々のいこいの場所になる…潮干狩りや野鳥の観察・散歩などの場所になります。

漁業に役立つ…(30)の養殖場やあさり(貝)・かかれい(魚)などが卵を産む場所になります。



また、こうした浜辺の多くは(31…日本海か太平洋で)側にあります。満ち潮と引き潮の差が、太平洋側で2m近くあるのに対して、日本海側ではその差が30cmくらいしかないためです。



これまで、土地を開発する目的で干潟の海岸を土砂で埋め立てて土地を広げたため、多くの干潟や干潟に住む生き物がすたを消しました。

しかし、近年は干潟を守る動きが各地で見られます。おもな干潟や湿地には、北海道の(32…?湿原)、東京都と千葉県にまたがる(33)、千葉県の(34…?干潟)、愛知県の(35…?干潟)などがあります。

